

保幼小中一貫教育だより

～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



# 豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第10-①号 R1. 12. 15

## 京都東山開晴館 教育委員会先進校視察研修 **その①**(令和元年11月20日(水))

小中一貫教育の先進的な取組みをされている学校や市町村を視察させていただくことにより、本町の取組みに活かすため、「教育委員の先進校視察」を8月より実施することとしました。今回は「東山開晴館（京都市）」の視察内容をお知らせいたします。

### 《学校紹介—東山開晴館①》

京都市街の中心地に位置する小中一貫教育校。

2011（平成23）年4月に洛東中学校、弥栄中学校と白川小学校、新道小学校、六原小学校、清水小学校、東山小学校を一体化し、9年間の一貫教育校として設立された。



第3回目の視察研修は、11月20日（水）京都市義務教育学校「東山開晴館」を視察させていただきました。その内容を2ページにわたってご紹介いたします。

今回は副町長、学校関係者、PTAの方々含め総勢22名で視察しました。



玄関前にある靴箱



校舎の説明を聞く  
PTAや教育委員の皆様



休憩時間の  
運動場の様子

（感想抜粋—岸本教育委員）

校長先生のお話の中で、「小中一貫校になったことで中1ギャップがないが、高校に行くときのギャップはある。環境の変化のギャップは意識して体験させる必要がある。」ということがあった。前期、中期、後期の過程の学校行事などの中で、課題を設け達成感を体験することで自分が変わっていくことを意識させる取組みが工夫されている。小規模化する豊能町の学校でも、意識して様々なギャップを体験させて行くことが必要ではないだろうか。同じ集団の中で過ごす気楽さで、子どもたちの中にある個性や能力や埋もれてしまっているのではないかと感じることもある。

（感想抜粋—PTA 役員 山口様）

興味を引かれののは、学び直しの時間です。この時間はクラスを習熟度別に4つに分け、自分のレベルにあった課題を進めさせます。学習面でのつまづきをなくし、学ぶ意欲を引き出そうとする試みで、小学校籍の先生だけでなく中学校籍の先生方も加わりきめ細かく教えておられるとのことでした。教育に対する情熱を感じさせるものであり、小中一貫校だから出来る取り組みでもあります。ぜひ豊能町でも取り入れていただきたいと思いました。

**その②につづく**



広々とした廊下



理科室の前に掲示された新聞



整理整頓された掃除用具

（感想抜粋—吉川中学校 大隈先生）

4・3・2年制をとりいれているため、中1ギャップがないというお話がありました。中1ギャップがないことで、教員間での小学校と中学校との壁もなくなっていきように感じました。しかし、その一方9年間というとても長い期間の中で、子どもたちにメリハリがつけづらそうだと感じました。小6から中1に上がる際の子どもたちの変容を目にしてきているだけに、一長一短の難しい問題だと思えます。